

サステナブルリサーチに関する原則の宣言(和文仮訳)

[Statement of Principles on Sustainable Research]

前文

グローバルリサーチカウンシル(以下、GRCという)の参加者は、持続可能な開発を支援する基礎から応用までのあらゆる種類の研究の関連性を認識し、その重要性を促進している。このような研究は、世界が直面する複雑かつ相互に関連する環境、社会、経済上の課題を理解し緩和する上で、極めて重要な役割を果たしている。

研究資金提供機関は、サステナブルリサーチに関する研究を支援し、研究をより生態学的、社会的、経済的に持続可能なものとするにより、国連の2030アジェンダの実施に対し研究が貢献することを支援する責任を共有している。GRC参加者は、複数の研究システムが必要であることを認識し、課題解決志向型研究と好奇心駆動型研究の双方が重要であることに同意する。

2024年のGRC年次会合において、GRC参加者は、特別に用意されたディスカッションペーパーにより提案された構想と問いに基づき、持続可能な開発と研究の関係について探求した。議論の結果、グローバルリサーチカウンシルの全参加者が同意する以下の原則がもたらされた。

サステナブルリサーチのための原則と実践

持続可能な開発のための研究

GRC参加者は、以下について取り組む。

- 研究が持続可能な開発に確実に貢献するよう、研究資金提供機関・政策立案者・研究実施機関・研究者の責任に対する認識を高める。
- 地球規模の課題に取り組むには、国を越えた協力と実質的な障壁を取り除く必要があることから、資金提供機関と研究者の国際的かつ多国間の協力を支援する。
- 社会的ニーズに応えるために必要な研究におけるギャップを埋め、持続可能な開発目標に沿った研究アジェンダを策定する。
- 持続可能な開発に貢献する研究を効果的に管理・支援するために不可欠な、安定した財政及び規制の枠組みを提供する。
- 個々の学術分野に閉じ込もってはいは、持続可能な開発のための研究がその潜在能力を十分に発揮することはできない。このため学際的・分野横断的な資質と能力の強化を図る。
- 異なる特性・視点・経験を組み込むため、研究者・専門家・ステークホルダーの異文化間能力に対する理解を深め、訓練を実施する。
- 持続可能な開発のための課題解決志向型研究を支援するとともに、適切な資金提供形態を試行する。
- 研究設計に多様性分析を組み込むことや、研究や意思決定プロセスに複数の声や経験を含めることで、持続可能な開発のための研究における多様性を育む。例えば、先住民の研究や知識体系は、持続可能な研究のためのユニークな機会と解決策を提供する。
- 人脈・ネットワーク・パートナーシップを構築するため学際的研究に必要な長期的なコミットメントを可能

にし、状況の変化に適応できる資金調達メカニズムを形成する。

- 必要とされる政策・資源・予防策・パートナーシップを用いて、持続可能性のための協力を支援する。
- 各パートナーが貢献する能力・視点・知識を活用し、より公平な競争の場を創出することで、相互協力を強化する公正なパートナーシップと地域社会の参加を可能にする。
- 技術移転や商業化の取組に及ぶ、包摂的・倫理的な方法で実施される研究・イノベーションのプロセスを支援する。

研究そのものを持続可能にする

GRC参加者は、以下について取組む。

- 研究の実施において、責任ある持続可能な実践(例:出張や移動・廃棄物管理・男女平等・社会的包摂・質の重視・雇用条件)について模範を示しつつ奨励すべきであるという資金提供機関の責任を認識する。
- より大きく、より長期的なインパクトを達成するため、資源と努力を結集し、グッドプラクティスを共有する。
- 研究成果を広めるための基盤としてオープンサイエンスを奨励し、研究論文へのよりグローバルなアクセスを確実にするため研究データの効果的な管理・活用・再利用・再現性を確保する。
- 持続可能で責任ある研究評価の戦略とプロセスを採用し、推進する。これには、研究成果について量よりも質を重視することや、学術・社会の各分野・セクターに広くまたがって行われる研究を含め多様な研究アプローチや知識獲得法に適応することが含まれる。
- 研究が、持続可能な開発目標の様々な側面においてより持続可能な未来にどのように貢献しているかを監視するシステムを開発し、実装する。
- 想像力・創造力・リスクテイク能力を養うために、安定したキャリアとキャリア開発を促進する。これには、特に若手研究者のため、不安定な状況に陥るリスクを軽減することが含まれる。
- 持続可能性を研究実践の中心に据えるため、研究文化における前向きな変化を促す。

持続可能性のための科学を意義あるものに

GRC参加者は、以下について取組む。

- システム思考を奨励することにより、持続可能性科学の重要性を確保するため複雑な環境・文化・社会システム間の関係への理解を深める、。
- サイエンスを社会における重要な担い手として捉えつつ、研究コミュニティと社会の他のセクターとの対話を可能にし、サイエンスコミュニケーションを支援する。。
- すべての研究のプロセスを通して異なるステークホルダー間の知識交換を支援するため、研究者・研究資金提供機関・政策立案者・その他のステークホルダー(個人および機関)の能力強化を図る。
- 共同創造的で社会のニーズに応える研究における参加型アプローチを支援する。
- 地域コミュニティ・政策立案者・官民企業を含むステークホルダー間の信頼を醸成し、協力と知識移転を促進する。
- あらゆる形態の研究成果、特に学術的な文脈では通常期待されない研究成果の価値を見極め、研究者を正當に評価し、適切な場合にはそれに報いる。